お散歩するのにちょうどいい！

稲生沢（いのうざわ）をみる、しる、ふれる。

河内温泉・蓮台寺温泉

散策マップ

稲生沢で楽しむ季節めぐり

しだれ桃や桜などの春の花が一斉に咲き、あたり一面が春らしい景色に包まれる時期や、温かな手湯や足湯に浸かりたい冬の時期を稲生沢で過ごしてみてはいかが？　春と秋・冬におススメのコースを紹介します。

春の花満喫コース　3月下旬～4月上旬

しだれ桃の里を中心に、満開のしだれ桃や桜、広台寺のシャクナゲを見るコースです。しだれ桃の里祭りや大日如来坐像の拝観日に合わせて散策するのがおすすめです！

秋・冬のお手湯コース　10月～3月

お湯に触れ、あたたまりながら散策するコースです。湯の華小径沿いには、あちこちに源泉から溢れ出たお湯（手湯・足湯）が流れています。日帰り温泉のある旅館に立ち寄ってゆっくりあたたまるのもおすすめ。10月7～15日、12月31日～1月3日は大日如来坐像拝観日です。合わせてどうぞ。

★「お手湯の手ぬぐい」を道の駅「開国下田みなと」の「まるごと下田館」で販売しています。1枚300円。

お問い合わせ
下田市役所 建設課都市住宅係
TEL：0558-22-2219　FAX：0558-27-1007
Mail：kensetsu@city.shimoda.lg.jp

立野橋と蓮台寺温泉場の遠望（土屋氏所蔵絵葉書集より）

稲生沢地域の集落、蓮台寺・河内・立野は、歴史や文化が感じられるスポットが残っており、のんびりとお散歩するのにぴったりの地域です。

物資の中継地として栄えた立野

江戸時代は木炭や薪を運び出すのに船の運搬が便利でした。立野の中之瀬は、稲生沢川上流の山間部と下田港を結ぶ中継地として絶好の場所にあったので、小さな商店街が形成され、とても賑わいました。現在、なまこ壁の蔵や川沿いの石垣など、当時の名残がみられます。

河内温泉・蓮台寺温泉

江戸時代、全国的に温泉浴場が爆発的に流行しました。明治初期の温泉番付には河内温泉と蓮台寺温泉の名を見つけることができます。下田に入港した船の乗組員や漁師、蓮台寺鉱山の労働者たちも、仕事が終わると温泉場に来て疲れた体を癒しました。

現在、かつてほどの賑わいは見られませんが、温泉と地域の歴史や文化が、このまちや人々を支えてきたことは言うまでもありません。

まちのあちこちで温泉が流れ、なまこ壁の古い民家や石垣、社寺など、歴史・文化の痕跡が残されています。地域の歴史を紐解きながら、ぶらり気ままに歩いて見てはいかがでしょうか。

◆ 湯ぞ温かければ、まちぞ人ぞあたたかい。地域の小径散策でひと休み・・・そんな土地柄です。◆

地域の人々から尊敬された正直者の松枝翁

幕末、明治、大正、昭和の4つの時代を生きた松枝翁は、地域のために道の修理や石垣つくりなど様々な事を無報酬で行い、大変尊敬されました。その善行をたえた石碑が天神公園にあります。

心温まる物語 現代のたから・命さん

40年前、蓮台寺に住むおじいさんが、花好きな奥さんのためにしだれ桃の種を庭先にまきました。その庭が現在の「しだれ桃の里」。おじいさんが亡くなった後も、住民が引き継いで育て守っています。

蓮台寺の桃源郷 しだれ桃の里祭り

しだれ桃開花時期の3月下旬から4月上旬に開催される お祭り。約300本のしだれ桃と、木の下に植えられた春の花が一斉に開花します。地場産品の売店も並びます。

伝統花火の復活 河内の花火

伝統花火を復活させたい思いから、昭和20年代に伝統製法に基づく花火づくりが始まりました。毎年10月中旬頃開催の河内の手筒花火大会で使用される花火は全て手作りされています。

連台寺地区の由来となった 幻の蓮台寺（山号：温泉山）

蓮台寺という地名は、鎌倉時代の承久年中（1219～1221年）に廃寺となった幻の寺「蓮台寺」が起源になったとされています。「温泉山」という山号から、古くから温泉の地であったことがうかがわれます。

国の重要文化財 大日如来坐像（蓮台寺のご本尊）

幻の蓮台寺のご本尊と言われている大日如来坐像は、住民からは大日さんと呼ばれ慕われています。800年以上の間ほぼ完全な姿で守られてきたのは、住民の強い信仰心があったからです。大日如来坐像は平安時代後期の特徴を有し鎌倉時代初期の作とされ、国の重要文化財に指定されています。

大日如来坐像をかくまったお寺 湯谷山広台寺

山号である「湯谷山」に温泉とのつながりを想像します。明治時代、多くの仏像などが廃棄された廃仏毀釈がおきたとき、天神神社に安置されていた大日如来坐像をかくまっていました。

吉田松陰の隠れ家 県指定史跡 吉田松陰寓寓処

幕末、黒船に乗って海外渡航をしようとした吉田松陰。皮膚病の湯治のために上の湯権現そばの共同湯に入浴していたところ、医師である村山行馬郎に出会い、村山邸（吉田松陰寓寓処）にしばらく身を寄せることになりました。村山邸は当時のままの姿で残されていて、実際に松陰が隠れていた部屋などを見学することができます。

文化人に愛された温泉場 河内温泉・蓮台寺温泉

蓮台寺温泉は明治初期の温泉番付に記載され、幕末から明治にかけて著名人が訪れる下田の奥座敷として認知されていました。当時は多

温泉のある暮らし 共同湯

稲生沢には共同湯と呼ばれる地域のお風呂が点在しています。江戸時代には混浴だったそうですが、今は男女に分かれています。共同湯は

大日如来坐像が安置されている天神神社は、小高い山の上にあります。江戸時代には大日如来が祀られていた場所として、大日の森と呼ばれていました。天神を祭神とする神社ですが、大日如来をすっと見守ってきました。毎年10月の第2土曜・日曜には秋季例祭が開催されます。

大日の森の 天神神社

蓮台寺温泉には、奈良時代に人助けをしながら仏教を広めた行基菩薩（ぎょうきぼさつ）の伝説が残っています。

行基は諸国行脚の道すがら、天城を超え、険しい山道を歩く途中、しばしまどろみ夢を見ました。夢の中に天狗が現われて「ここから南に下ると、葦の茂みに温泉が湧くところがある。これを開いて庶民を救いなさい…」と言いました。行基はこれに従い、お告げの場所を錫杖の先で突くと、温泉が湧き出てきたそうです。このときから地区内数か所で温泉が湧出するようになったと伝えられています。

でんぼく 天馬駒神社

地域では安産の神様として、下半身の冷え性に大変ご利益があるとうたわれています。温泉地らしい謂われです。階段を上がったり小高い場所にある境内からは、稲生沢ののどかな風景を見渡すことができます。

お湯の神様 上の湯権現・下の湯権現

蓮台寺地区に湯を授けてくれた神様を、上の湯権現、下の湯権現としてそれぞれ社に祀っています。毎年1月11日に湯権現祭りが行われ、湯を授けてくれた湯権現と先人の努力に対して感謝の念を捧げます。

散策マップ

お散歩するのにちょうどいい！

稲生沢をみる、しる、ふれる。

河内温泉・蓮台寺温泉

稲生沢を歩いていると、石垣と石畳の路地、バシャバシャと音を立てて湯が流れ落ちる石の器、古いなまこ壁の家、古くから続く温泉宿など、どこか懐かしい風情ある景色に出会う事ができる。

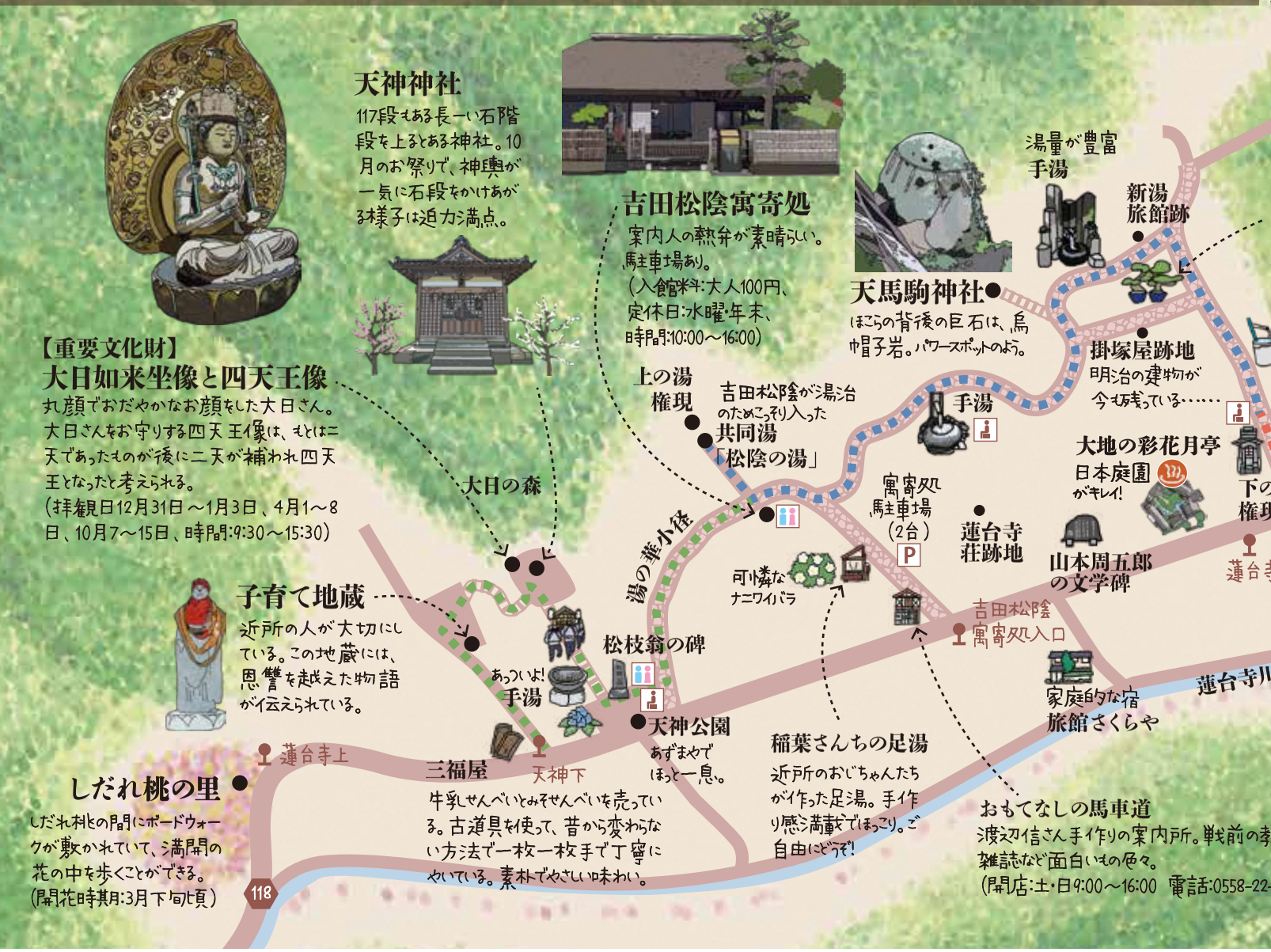
稲生沢の今と昔を比べよう！

下の3つの写真は大正～昭和に蓮台寺で撮影されたもの。これらの場所は現在も残っています。どこにあるのか探して写真を撮ってみましょう。吉田松陰寓寄処で、撮った写真の枚数に応じてオリジナルポストカードが貰えます！

1

2

3



稲生沢散策おススメコース

天神社コース	時間:15分（約350m）	吉田松陰寓寄処 ●（約180m）● 天神神社 ●（約70m）● 子育て地蔵	気軽にお散歩を楽しめるコース。
湯の華小径コース	時間:20分（約420m）	吉田松陰寓寄処 ●（約20m）● 上の湯権現 ●（約400m）● 下の湯権現	情緒あふれる風景が残ってます。
（たっぷり）歴史探訪コース	時間:60分（約1,600m）	中之瀬 ●（約300m）● 湯の華小径 ●（約700m）● 天神神社	たくさん歩いたら日帰り温泉へ！

オンラインで散策を楽しむ　より詳しい情報をWEB上で公開しています。右のQRコードをチェック！GPS機能でマップ上に自分の位置が示されます。明治・大正時代の写真が載っているので、現在の風景との比較を楽しめます。

稲生沢の温泉紹介 ～河内温泉・蓮台寺温泉～

金谷旅館
大正4年に建てられた『千人風呂』は、浴槽から壁や天井まで全てがヒノキ造りで圧巻。
日帰り温泉 9～22時まで

清流荘
あこがれの高級旅館。1979年、サミットで来日したカーター米国大統領が立ち寄り、一家で昼食をとったことでも有名。

クアハウス石橋旅館
豪壮な唐破風造りの玄関とロビーの八十八面格天井の漆喰造りの花々は必見。
日帰り温泉 10～21時まで

大地の彩花月亭
数寄屋造りの純和風の旅館。300坪もの広大で優美な日本庭園でくつろげる。
日帰り温泉 14～18時まで

旅館さくらや
地下から湧き上がる源泉そのものに浸かることができる。家庭的な雰囲気の旅館で主人の笑顔と人柄に癒される。

お宿 星めぐり
すてきな若夫婦が営むお宿。地元の新鮮な食材を使用した海の幸・山の幸の豊富な創作料理はとても美味しい。

稲生沢むかしばなし

かつて稲生沢にあった旅館や鉄道と、昔からの風習を紹介します。

新湯旅館
戦後、銅版画家である浜口陽三が2年程滞在した。浜口は滞在中に、旅館の庭先で山羊を育て、チーズを作ってふるまったエピソードがある。

掛塚屋
「湯の村やゆめばかりなる春の雪」。これは小説家幸田露伴が掛塚屋で作った俳句。なんともやわらかく、蓮台寺らしさにあふれている。

蓮台寺荘
小説家の山本周五郎がたびたび滞在して執筆活動に当たるなど、人気のあった数寄屋造りの純和風旅館でした。耐震化がうまく進まず閉館した。

南豆馬車鉄道
昔、蓮台寺鉱山の鉱石を、馬車鉄道で下田港まで運んだ。地元の人は「馬鉄」「トロ馬車」と呼んだ。廃線後、路線跡に沿って、温泉のパイプラインが引かれ、下田港の方まで伸びている。

中之瀬
江戸時代、山から木を運ぶのに水運を利用していた。中之瀬には船着き場があり、山間部と下田港を結ぶ中継地として発展した。大正時代には銀行や会社、様々な商店が軒を連ね、とてもにぎわっていた。伊豆石となまこ壁の建物、川沿いの石垣など、当時の雰囲気を醸し出している。

立野には正月に餅を食べない風習がある。
昔、立野の氏神様は、元日の朝お雑煮を召し上がり、餅がのどにつかえて亡くなられた。それ以来、立野の人達はお正月の餅を食べない事になった。実際、「そんな馬鹿な事はない。」と言って餅を食べた者が火のたりにあったので、今でも立野の人達はこのきまりを守っている。